

「BELIEVE」

BELIEVE
2018
春号
VOL.64

- 就任のご挨拶 大阪赤十字病院 院長 坂田 隆造
- 外来・入院アンケート調査報告



川田優也「オシャレなジャングルのバレエリーナー達」 ・制作年/2008 ・素材/色紙、紙
〈エイブルアート・カンパニー所属 URL:<http://www.ableart.com.jp>〉

シリーズ 情熱の白衣 医師の素顔64 救急科部長(救命救急センター長) 西村 英祥

- 食だより「菜の花のキンパ」／お薬ミニ知識「意外と知らない? 市販薬のこと」
- 『がんサポートチーム』からのお知らせ／＼かかりつけ医、をもちましょう ● 入院前サポートセンター 薬剤師外来

大阪赤十字病院の理念

わたしたちは
人道・博愛の赤十字精神に基づき
すべての人の尊厳をまもり
心のかよう高度の医療をめざします

患者さんの権利

1. 一人の人間として、人権をまもられる権利があります
2. 良質かつ適切な医療を、公平に受ける権利があります
3. 医療についての情報や治療上の説明を受ける権利があります
4. 自分自身の治療について、医療行為を選択する権利があります
5. プライバシーがまもられ、個人情報保護される権利があります
6. 自己の診療録等の医療情報の開示を求める権利があります
7. 他施設の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります





就任のご挨拶

大阪赤十字病院 院長 坂田 隆造

このたび、4月1日付けで大阪赤十字病院院長を拝命しました坂田でございます。前院長の隠岐尚吾先生を後継し、微力ではありますが、引き続き皆さまから信頼される病院づくりに全力で努力する決意です。よろしくお願いいたします。

大阪赤十字病院に籍を置くのは初めてですので、簡単に自己紹介をさせていただきますと思います。兵庫県生まれ、昭和50年京都大学医学部卒業後、心臓血管外科医として医師生活を送ってきました。福岡県の小倉記念病院、熊本中央病院を経て鹿児島大学第二外科、最後の勤務が京都大学医学部心臓血管外科でした。平成27年3月に定年退職し、4月より神戸市立医療センター中央市民病院に管理職として着任、平成30年2月1日から病院長代行として当院にお世話になっていました。百年以上の歴史を有する当院の赤十字を仰ぎ見るとき、伝統の積み重ねを可能にしたものは皆さま方の当院の診療に対するご理解のためものと身の引き締まる思いであります。これからも、大阪赤十字病院の基本理念であります「わたしたちは、人道・博愛の赤十字精神に基づき、すべての人の尊厳をまもり、

心のかような高度の医療をめざします」を心がけ、長い伝統に支えられた当院の長所を伸ばし、赤十字病院としての使命を果たしていきたいと考えています。

大阪赤十字病院は大阪地区でも屈指の大病院で、それぞれの診療科に一流の専門家を有し、多様な疾患に対応できる総合病院としての診療体制を築いてきました。その結果、大阪府より地域医療支援病院の認可を受け、地域医療を支える中核的病院としての役割を求められることとなりました。近隣の先生方や医療機関の皆さまとの連携をこれまで以上に深化させ、ご協力、ご支援をいただきながら今後も地域に密着した専門性の高い総合病院をめざしていきたいと考えています。

医療がますます高度になり、人口の高齢化が相伴って、国民の医療に対する関心は極めて高くなってきています。そのようななかで、病院での医療に対してさまざまなご意見、ご批判があることは「医療人として重大に受け止めています。大阪赤十字病院に対する皆さま方のご要望に少しでもお応えし、診療を通じて、当院の医療が皆さま方の安心の場となりますよう努力してまいります」と思っています。

Profile

- Q** 医師を志したきっかけは？
→ 小学生の頃、シュバイツァー博士や野口英世の伝記を読んで
- Q** 心臓血管外科を選んだ理由は？
→ 一人前になるのに最低10年かかると聞き、少なくともその間は目標があり不善をなすことはあるまいと考えたからです。
- Q** モットーは？
→ 一日を生き、感謝して床に就く
- Q** 趣味は？
→ ゴルフ、読書(今はインド仏教関連の本を読んでいます。)

経歴

- 昭和50年 京都大学医学部卒業後、京都大学医学部第二外科入局
 - 昭和51年 滋賀病院 外科
 - 昭和52年 小倉記念病院 心臓血管外科
 - 昭和57年 Institut Mediteraneen de Cardiologie, Unite de Chirurgie Cardiovasculaire, Clinique de la Residence du Parc (France)
 - 昭和59年 Centre Medico-chirurgical de la Porte de Choisy Unite de Chirurgie Cardiovasculaire (France)
 - 昭和60年 小倉記念病院 心臓血管外科
 - 昭和63年 熊本中央病院 心臓血管外科 医長
 - 平成12年 鹿児島大学医学部外科学第二講座 教授
 - 平成15年 鹿児島大学大学院歯学総合研究科 教授
 - 平成20年 京都大学大学院医学研究科 教授
 - 平成23年 京都大学医学部附属病院 副院長
 - 平成24年 京都大学教育研究評論家 評議員
 - 平成27年 神戸市立医療センター中央市民病院 院長
 - 平成30年 大阪赤十字病院 院長就任
- 資格:日本胸部外科学会指導医、心臓血管外科専門医、日本外科学会指導医、京都大学医学博士

Ryuzo Sakata

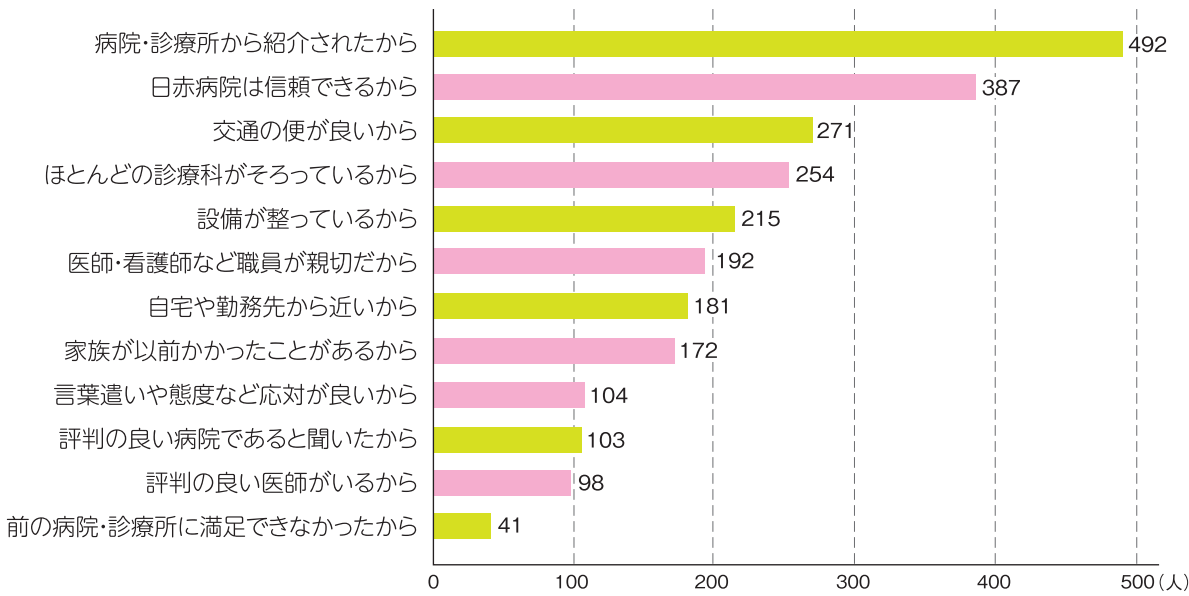
外来・入院アンケート調査報告

本年も「外来・入院アンケート調査」を行いました。本誌『びりくぶ』で、その結果を報告します。ご協力をいただいた多くの患者さんから、貴重なご意見を頂戴しました。皆さまからの貴重なご意見をもとに、「ご期待に添えるよう、また「こころのかよ」高度の医療」を提供していけるよう、尽力してまいります。アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

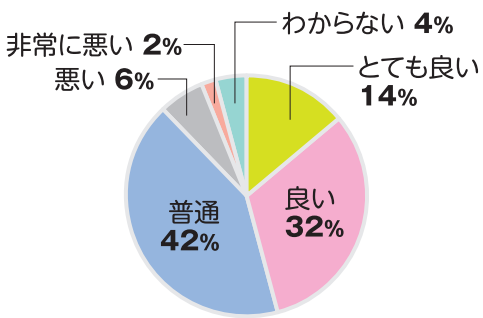
- 調査対象：大阪赤十字病院に通院中・入院中の患者さん
- 調査期間：外来平成30年2月20日～2月23日（入院平成30年2月20日～3月1日）
- 調査方法：無記名回答

※アンケート結果は部を抜粋して掲載しています。アンケート調査で寄せられたご意見はページで紹介しています。

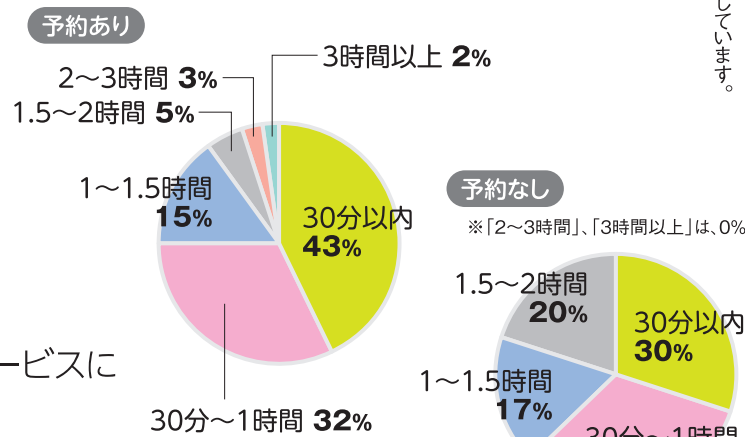
外来入院 Q 当院を選ばれた理由をお聞かせください(複数回答可)



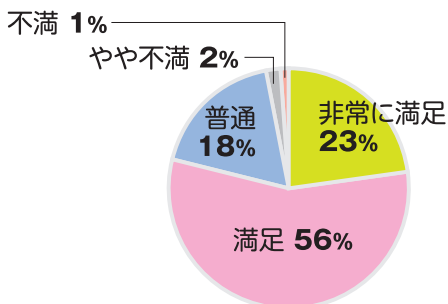
入院 Q 食事について



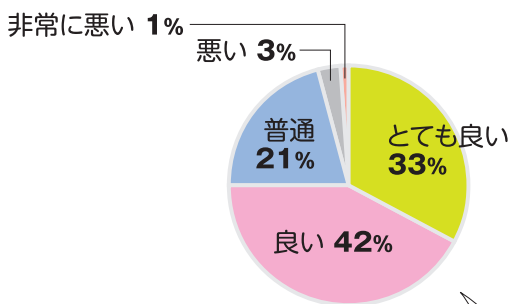
外来 Q 来院されてから診察を受けるまでの待ち時間についてお答えください



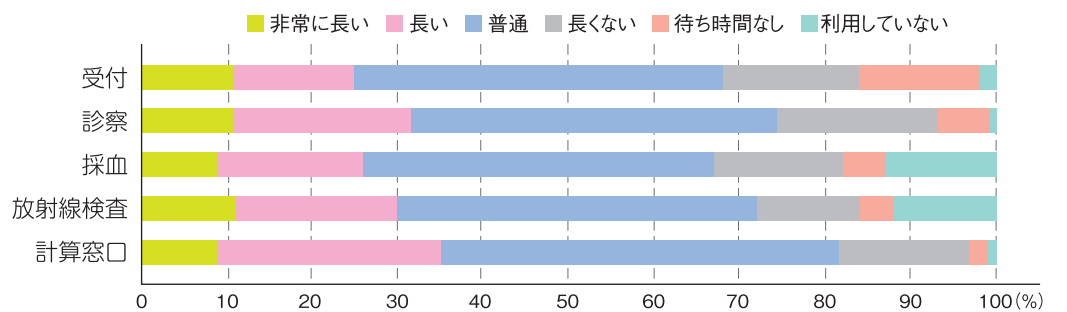
外来入院 Q 総合的に見て、当院のサービスに満足していますか？



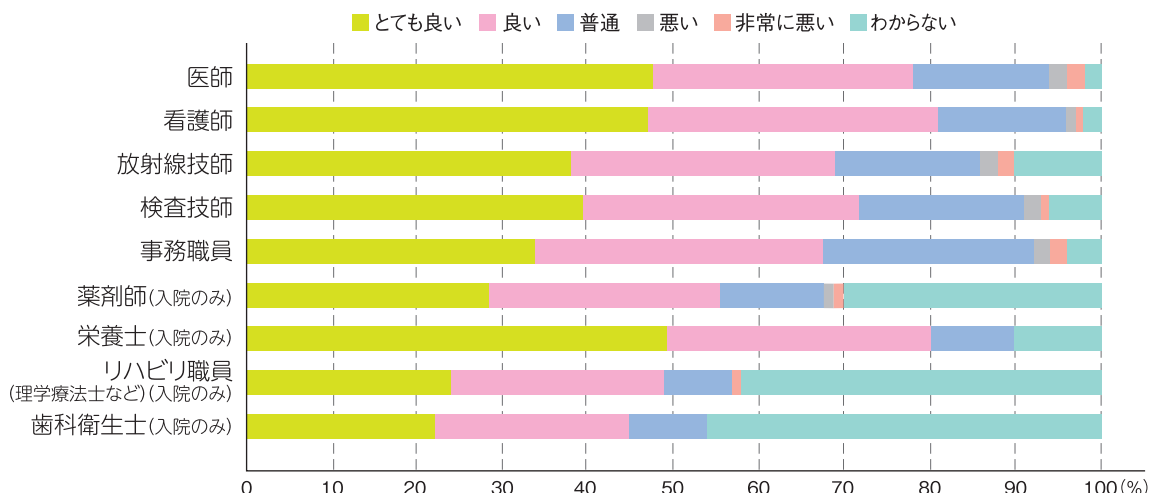
外来入院 Q 当院の建物・設備の快適度についてお答えください



外来 Q 待ち時間はどうでしたか？



外来入院 Q 職員の対応はいかがでしたか？



■患者さんからのご意見

入院 ●病室の清潔度が気になります。床にほこりが残っていました。

回答 皆さまにはご不快な思いをさせていただきましたこと、お詫び申し上げます。当院では清掃の質を向上させるため、職員が定期的に院内をラウンドし、汚れている箇所が確認できた場合は、清掃員に改善の指示をしています。これからも院内の美化に努めてまいりますので、お気づきの点があれば職員へお申し付けください。

救急の現場で、目の前の問題解決に大切なことは、患者さんを診る医療スタッフとの「コミュニケーション」につきます。

救急科部長(救命救急センター長) 西村 英祥

いつ患者さんが来るかわからない。気を緩められない1年でした。

平成23年度は6,510件、5年後の平成28年度は8,692件、29年度はさらに増加。この数字は当院に搬送された救急車の1年ごとの受け入れ台数である。救急科の仕事は緊急を要する患者さんの状態を安定させ、治療ができる状態にしていくこと。総受診者数が毎年2万人を超える救急科に、昨年度部長として就任したのが西村医師だ。

「これまでいた脳神経外科でも、患者さんの半数は集中治療を行うので、救急対応には慣れていました。しかし脳神経外科は、外来診察・手術・緊急対応と、仕事の流れが予測できませんが、救急科は

いつ患者さんが来るかわからない状況。どんな患者さんが来るのか、救急車は到着したのかと、常に緊張感があつて、気を緩められるときがないですね。」

患者さんの対応を次の担当医師に引き継げば、やっとホッとできる時間になるのだが、西村医師の場合、そこから事務仕事にとりかかると「患者さんを診ることもありませんが、救急科は若手医師たちの活躍の場でもあります。部長として、若手を含めたスタッフに活躍してもらえるよう、現場のマネージメント、リーダーシップを学び、それを実践する1年でした。」

目の前の問題を、みんなで解決していく。その経験がやりがいになっています。

西村医師が産まれたのは、なんと当院。医師になり、「地元で、地域の役に立てる」ということで、「もうれしい」という西村医師は、子どもの頃から「自分を活かせる仕事に就きたい」との思いがあつたのだそう。

「何かの本で『医師の仕事はどんなタイプの人でも自分に合う分野が見つかる』というのを読み、医師に興味を持ちま

した。物事にじっくり取り組むタイプだと思っていたら、実際に働いてみるとそうでもなく、今、混乱する現場で問題を解決していく仕事は、自分に合っているなと思いますね。」



休みがあれば「走りたい」という西村医師。好きなマラソンを早く再開したいのだそう。

救急科といつても、一人の医師がすべての疾患を診られるわけではない。各分野で、任せられる医師を増やして体制を整えたい、と西村医師は考えている。

「今後も増加傾向にあるのが高齢の患者さんです。内科的疾患を複数抱える方が多く、各診療科の医師の判断が必要になってきます。目の前で起こる問題を解決するには、まわりとのコミュニケーションをとっていくことが大切だと、この1年で数多く実感し、やりがいとなっています。スタッフの数や場所は十分ではありませんが、患者さんにホッとしてもらい、喜んでもらうためにも、やるべき仕事を分かち合い、医師や看護師それぞれの志を實現できる環境づくりに全力を尽くしていきたいですね。」

8月27日大阪府生まれ。広島大学医学部卒業後、京都大学医学部附属病院脳神経外科を経て、脳神経外科医として大阪、京都、香川などの病院で活躍。平成24年に当院脳神経外科部に赴任し、翌25年から副部長を務め、平成29年に救急科部長(救命救急センター長)に就任した。

看護師レポート 64 TERUYO YABUNAKA

6月13日徳島県生まれ。小松島赤十字看護専門学校卒業後、当院に就職。病棟看護師として経験を積み、平成11年泌尿器科外来の看護係長、平成18年に呼吸器内科病棟の看護師長に就任。平成23年には集中治療部看護師長、平成27年に中央手術室の看護師長に就任し、約50名もの看護スタッフをまとめている。



●看護師長 敷中照代

私が看護師になったのは、幼い頃に父が入院していた病院での看護師さんとの出会いがきっかけです。父だけでなく、私や弟にもやさしく接してくれた姿が印象に残っていて、憧れていました。

看護師の思いを理解し、長く活躍できる職場に。いるだけで安心できる存在になりたい。

現在は看護師長として、中央手術室を担当しています。手術に必要な医療機器の確認や患者さんの入室時間の調整、各手術の担当看護師の振り分けなどを行っています。はじめて看護師長になったときは、師長というより看護師として、患者さんのケアやまわりの看護師をサポートしていましたが、中央手術室では時間的余裕がなく、サポートだけでは仕事がスムーズにできない現実がありました。その頃、研修で病院運営を意識した看護師管理の重要性を学んだことで、「忙しいなかでも看護師がモチベーションを持って働ける環境づくりができるように」と、今は看護師長の使命を実感しながら取り組んでいます。

休みの日は孫を連れて公園に遊びに行くなど、孫と二緒に過ごします。救護の活動で親しくなった他職種の職員との食事会も楽しみのひとつです。中央手術室には50名ほどの看護師がいて、目標もライフスタイルもそれぞれです。「子どもがいるため、夜勤ができずキャリアが積めない」「まわりのサポートばかりでキャリアアップできない」という看護師もいます。ですが、諦めさせるのではなく、長く看護師を続けるなかで、希望が叶うようサポートしていきたいですね。看護師たちの思いを聞けるのは師長だけなので、それぞれの状況を見て考え、サポートしていくことにやりがいもあります。「あ、師長がいてくれる」と安心してもらえて、困ったこと、目標にしていることについて話し相手となれるような存在でありたいですね。



お孫さんとのツーショット。



食だより

栄養管理課 管理栄養士 山口翔平

菜の花のキンパ

春の風物詩のひとつである、菜の花は、淡路島や神戸総合運動公園など、各地域で見頃を迎えます。鑑賞用の菜の花の見頃は4月ですが、食用の菜の花は2〜3月にかけてが旬となります。店頭で見かけると「春が来たな」という気持ちにさせてくれますね。



●栄養成分(1人分)
エネルギー:474kcal、たんぱく質:18.4g
脂質:13.1g、炭水化物:63.8g

「菜の花」は、キャベツや白菜、ブロッコリーと同じアブラナ科の植物で、私たちにとって身近な食材のひとつです。栄養価の高い、ほうれん草や小松菜などの青菜野菜に近い栄養成分を持っています。そのなかでも特にビタミンB群やビタミンC、食物繊維が菜の花には多く含まれています。ただ、水溶性のビタミンも多く含んでいるため、茹でるときはさつと短時間で茹でるようにしましょう。茹でる時間が長いと栄養素が抜けてしまいうえに、きれいな色味も飛び、食感もなくなってしまうんです。春らしい食材である、菜の花を使った料理「菜の花のキンパ」を紹介します。



〈材料〉(2人分)

- 菜の花……………50g
- 人参……………1/2本
- A〔ごま油……………小さじ1/2
塩……………少々
- 牛肉こま切れ……………100g
- 市販の焼肉のたれ……………お好みの量
- ご飯……………300g
- B〔ごま油……………小さじ1/2
白ごま……………適量
- 卵……………1個
- C〔砂糖……………小さじ1
うま味調味料……………少量
- 油……………小さじ1
- のり巻き用焼きのり……………2枚

作り方

- 1 菜の花はお湯でさっと茹で、冷水で灰汁を抜き、水分を拭き取る。
- 2 人参は皮をむいて千切りにし、電子レンジ(600W)で1分加熱する。
- 3 ①と②をボウルに入れ、Aを加えて和える。
- 4 牛肉を、熱したフライパンに入れ、焼肉のたれを加えて、炒める。
- 5 ご飯をボウルに入れ、Bを加えて混ぜ合わせる。
- 6 卵にCを加えてかき混ぜ、熱したフライパンに油を引き、薄焼き卵を作る。
- 7 巻きすに焼きのりをのせ、ご飯を薄くのばして平らに広げる。その上に具材を並べ、しっかりと巻く。
- 8 食べやすい厚さに切り、盛り付けて完成です。



お薬ニ知識

薬剤部 薬剤師 大園 紗菜



意外と知らない？市販薬のこと

お薬には、大きく分けて、病院やクリニックで処方される「医療用医薬品」と、薬局やドラッグストアなどで、自分で購入できる「一般用医薬品(市販薬)」があります。「一般用医薬品」のことを「OTC医薬品」ともいいます。英語の「Over The Counter(オーバーザカウンター)」の略語で、「店頭で買える薬」を意味しています。

今回は、一般用医薬品(OTC医薬品)のパッケージに表示されている分類について紹介したいと思います。

一般用医薬品(OTC医薬品)の分類

第1類医薬品

副作用、相互作用などの項目で、安全性上特に注意を要するもの。薬剤師からの書面による情報提供が義務付けられているため、薬剤師のいる店舗でのみ販売されています。最近は、元々医療用医薬品だった一部のものが、第1類医薬品として店頭販売されることが増えてきています。

(例)一部の解熱鎮痛剤、一部の育毛剤、H2ブロッカー含有の胃薬など

第2類医薬品

副作用、相互作用などの項目で安全性上、注意を要するもの。このなかで、より注意を要するものは「指定第2類医薬品」となっています。薬剤師または登録販売者からの情報提供は努力義務となっています。

(例)総合かぜ薬、解熱鎮痛剤、ステロイドや抗菌の軟膏など

第3類医薬品

副作用、相互作用などの項目で、第1類医薬品や第2類医薬品に相当するもの以外の一般用医薬品。副作用が少なく、作用のゆるやかなものが多いです。

(例)ビタミン剤、うがい薬、主な整腸剤、目薬など

最近、「セルフメディケーション」という言葉を耳にされることがあるかと思いますが、セルフメディケーションとは、世界保健機関(WHO)による定義で、「自分自身の健康に責任をもち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」となっています。軽い病気の治療や症状の改善は自己判断で行い、健康を維持していくという考えです。もちろん、迷ったときやご自身で判断できないときは、店舗の薬剤師・登録販売者に相談することができます。その際に、受診勧告を受けた場合や、セルフメディケーションでは症状が治まらない場合、症状が重い場合は必ず医療機関を受診しましょう。



「がん看護」スペシャリスト看護師のご紹介

緩和ケア認定看護師 金村 由華

がん相談支援センター 当院では、がん全般に関するさまざまなご相談をお受けしています。

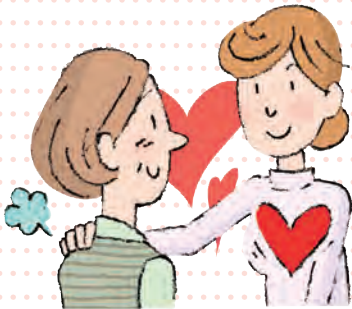
TEL:06(6774)5152 FAX:06(6774)5126 syakaika@osaka-med.jrc.or.jp



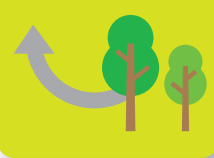
私はがん患者さんが多い消化器外科病棟に所属しています。手術、抗がん剤、放射線治療を受ける患者さん、痛みやさまざまな症状を抱える患者さんとかかわってきました。「痛みが楽になれば…」と痛み止めを使っても痛みが緩和されない患者さんに対し、楽になつてほしいのに何もできていないのではないかと悩むことがありました。そんなとき、頼りになるのが当院のがん看護スペシャリストの看護師たちで、『がん専門看護師』、『認定看護師』と呼ばれる質の高い看護が実践できると認められた看護師です。がんの知識をたくさん持っているスペシャリストの看護師は、痛みの性質に合ったお薬の選択や使うタイミング、看護師だからこそできる痛みを和らげるケアを一緒に考え、提案します。それらのアドバイスを基にケアをした結果、痛みが和らいで「楽になった。これで旅行に行けるかな」と笑顔を見せられる患者さんもあります。私は、痛みから解放され、その人がしたいことに向かって進めるようにサポートができる、スペシャリストの看護師に憧れを抱くようになり、認定看護師に

なるための勉強を始めました。認定看護師になるための教育課程で、痛みや症状を緩和した結果だけでなく、その先にある生活が、その人にとってより良いものになるように支援をすることが、看護師の役割だと改めて気づきました。そして、病気を抱えて思うように身体が動かなくなつたとしても、人は決して弱い存在ではなく、力のある存在であることを学びました。この学びを得て、患者さんやご家族との対話から、その人に潜在する「力」は何なのかを感じ取り、背中をやさしく押すサポートのような認定看護師になることが今後の目標です。

当院のがん分野では、がん専門看護師2名、がん性疼痛看護2名、がん化学療法看護2名、がん放射線治療看護1名、乳がん看護1名、緩和ケア看護1名、と現在9名の認定看護師が在籍しています。がん看護スペシャリストの看護師同士、外来や病棟で連携し、がんを診断されたときから、治療中はもちろん、治療を終えたその先の生活も、自分らしく生きるためのサポートをしていきたいと思っています。病気のことで、生活のこと、不安や気がかりなことがありましたら、どうぞ私たちにお声かけください。



登録医紹介



「かかりつけ医」をもちましょう

病院と診療所がその機能や役割を分担しながら、患者さんに適切な医療を提供することが求められています。自分のことをよく知っていて、ちょっとした病気やケガの診察や相談ができる「かかりつけ医」をもちましょう。

かかりつけ医

日ごろの健康管理
専門的な治療が
必要なら当院へ紹介

紹介

逆紹介

大阪赤十字病院

高度医療・専門医療
症状が安定したら再び
「かかりつけ医」へ

まさき 正木クリニック

- 院長/正木 初美
- 診療科/内科
- 住所/大阪市生野区桃谷2-18-9
- 電話/06-6741-5546
- 往診/有 ● 訪問診療/有
- 診療時間

| | 外 来 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|-----------------|-----|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前(9:00~12:30) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 午後(17:00~19:30) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

※水・日・祝日は休診



正木院長

特長 生活習慣病をはじめとする慢性疾患から、風邪や胃腸炎などの急性疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、アレルギー疾患など内科全般の診療を行っています。従来の西洋医療に加え、漢方やメディカルアロマセラピーなどの代替医療も取り入れ、男性女性問わず、幅広い年代の患者さんにご来院いただいています。また管理栄養士による栄養指導、禁煙外来、健康診断、予防医学、肥満・美容・アンチエイジング・AGA・EDなどのお悩みにも、内科医の視点で治療・相談に応じています。

地域の皆さまへ

「男性も女性も、いつまでも健康でいきいきと輝き続けるお手伝いをさせていただきたい」そんな想いで日々の診療を行っています。おひとりで悩まず、地域の皆さまが、気軽に相談できるかかりつけ医を目指して、これからも努力していきなりたいと思います。よろしくお願ひいたします。

医療法人 歓喜会 辻外科リハビリテーション病院

- 院長/辻 卓司
- 診療科/整形外科・リハビリテーション科・外科・内科
- 住所/大阪市天王寺区生玉前町3-24
- 電話/06-6771-0681
- 診療時間

| | 外 来 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|--------------------|-----------------|---|---|---|---|---|------------|---|
| 整形外科・外科・リハビリテーション科 | 午前(9:00~12:30) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 9:00~15:00 | ○ |
| | 午後(14:30~19:00) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 内科 | 午前(9:00~12:30) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 午後(16:00~17:30) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

※日・祝日は休診



北西側外観



セラピスト

特長 当院はリハビリテーションに特化した病院で、入院では回復期リハビリテーション、外来では通院リハビリテーションを中心に行っています。また、当法人には多数の介護保険施設もあり、綿密な連携をとっています。大阪赤十字病院からも、入院では脳卒中や大腿骨頸部骨折の術後など、外来では肩関節腱板断裂の術後などの整形外科疾患を中心に多数の患者さんをご紹介いただいています。

地域の皆さまへ

以前は辻外科病院として救急診療を中心に行っていましたが、リハビリテーションに特化し、病院名を変更してから10年が経過しました。入院は回復期病棟のため保険上、入院できる疾患が限定されていますが、外来では以前と変わらず整形外科、内科診療を行っています。また、介護保険サービスが必要な方に対しては、法人内の関連施設をご紹介しますので、気軽にご相談ください。

外来・入院アンケート調査報告

◆皆さまからのご意見を紹介します(一部抜粋)

■お褒めの言葉をいただきました

外来 人柄を感じる職員さんが多くいる。説明を同じ人に聞きたいと思うほど安心感をくれる職員さんがいる。自分を含め、家族はここでみてもらうと決めている。建物の設計が落ち着きを感じて、職員の穏やかな対応が安心感につながり、遠くから初めて来ましたが良かったです。いつも親切な対応で助かります。ありがたうございます。今後もよろしく願います。

入院 皆さんが親切なのでとても心地よく入院生活が送れます。外来時も話をとてもよく聞いてくださり、とても感謝しています。慣れない手術、入院生活をまったく不安なく過ごすことができました。博愛精神を持って臨まれている先生、看護師、スタッフの皆さんのおかげです。皆さんのお姿、心より本当に感謝いたします。担当医師、看護師さんの指示、指導の言葉遣い、明快さには感謝です。安心感があり、入院中、快適に生活しています。

入院 ●病室でのマナーの悪い方が多い。

●病室で携帯で電話するのをやめてほしい。お見舞いの人と大きな声で喋っている。注意するの怖い。

回答 当院には多くの患者さんが入院されており、ご年齢や病状もさまざまであるため、大部屋での過ごし方については院内のルールを遵守していただくようご協力をお願いいたします。また、携帯電話についてもエリアごとの表示に従ってご利用くださいますようお願いいたします。



★これらについては職員からお声掛けさせていただく場合がございますので、皆さまにもご理解ご協力をお願いいたします。

外来入院 ●窓口や部署、病棟によって対応が悪いところがあります。がんばっているスタッフの方がある分、態度が悪いと目立ちます。

回答 職員の言葉遣い、態度などにより不快な気持ちにさせてしまいましたことを、深くお詫び申し上げます。当院では、患者さんへの接遇について主に次のような取り組みを行っています。

- 患者満足度調査を実施し、その結果は、院内誌をはじめさまざまな形で職員へ情報共有し、接遇についても啓発しています。
- 接遇を高め、さまざまな研修会を開いて、職員

の知識を深めています。

●ご意見箱へ投函された職員の対応に関するご意見は、その都度職員へ指導しています。

いずれにしてもまだまだ未熟であることを痛感していますので、皆さまからのご意見をふまえ、さらなるサービス向上に努めてまいります。

外来入院 ●誰でも診察できるように、今後もして欲しいと思う。

回答 原則当院受診をご希望の方には、まず診療所にご相談の上、紹介状のご持参をお願いいたします。これは当院が**急性期医療、高度専門医療、救急医療**の役割を担っており、地域の中核病院として、専門性の高い医療を必要とする患者さんを中心にも多く治療するためです。

●早く退院しなければいけないように感じるのは、待ち患者が多いので仕方ないかも、と思いますが、もう少し、いさせて欲しいとも思いました。

回答 当院は急性期病院であるため、病状が安定した患者さんには適切な病院(リハビリ、療養への転院や、自宅へ戻り、紹介元やご希望の診療所へ診療の継続をお願いすることになります。

★紹介・逆紹介の仕組みは、1つの病院で治療を完了させるのではなく、地域全体で最適な医療を患者さんに提供するために、国が推進している「地域完結型医療」に基づくものです。専門的な治療・手術、救急医療の役割を担う急性期病院や療養などを行う病院、日常的な診察を行う診療所が各々の役割や機能を分担しながら連携しています。

外来入院 ●診察、計算支払いなどの待ち時間を短くしてほしい。

●待ち時間が長いときにテレビがあると退屈しな

回答 窓口や診察での待ち時間について、多くのご意見を頂戴しました。診察では、患者さんの症状によって診療にかかる時間が長引くこともあり、時間どおりに診察できていないのが現状です。現在、待ち時間短縮に取り組みことはもちろん、待ち時間を有益に過ごしていただけるような計画も検討しています。患者さんには大変ご迷惑をおかけし、誠に申し訳ございませんが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

入院前サポートセンター 薬剤師外来



患者さんに、安心・安全な入院医療を受けていただけるよう薬剤師もサポートしています。



▲入院前サポートセンターの薬剤師

大阪赤十字病院では、平成27年4月より、安心・安全な入院医療の提供を目的として「入院前サポートセンター」を開設しました。当初は外科、消化器内科の一部の入院患者さんを対象に運用を開始し、順次、他の診療科の患者さんへ入院前の支援を上げ、今ではほとんどの患者さんが入院前に利用する場所となりました。

入院生活は、いろいろな不安を伴います。入院前サポートセンターでは、そのような心配ごとを少しでも軽減し、スムーズに入院生活に入ってもらえるよう、看護師、薬剤師、事務職員がお手伝いをしています。

入院前サポートセンター内で、薬剤師は「薬剤師外来」の看板を掲げ、現在使用されているお薬やサプリメントなどの服用状況の確認をしたり、検査や治療、手術の際に中止しなければならないお薬があるかどうかの確認をしたりしています。

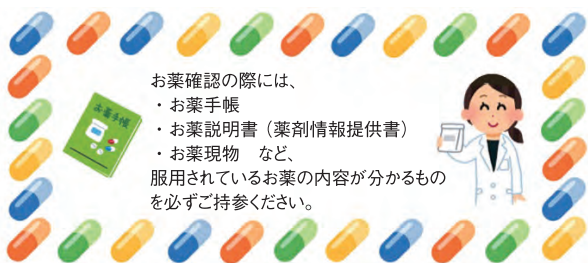
薬剤師外来が設置されて丸3年が経ちました。これからもサポートの幅を広げて患者さんの安心・安全な治療を支えていきます。また、入院治療だけではなく、左記のような外来での治療のお手伝いも始めています。

(例) ■ 特定のお薬について、飲み合わせを確認しています。そのお薬が開始になる前に、今飲んでおられるお薬を薬剤師が確認し、一緒に服用しないほうがいいお薬があれば、他のお薬への変更を検討してもらったり医師に報告しています。

■ 当院は、ほぼすべて院外の保険薬局からお薬をもらっていただくことになっていますので、お薬の説明は保険薬局の薬剤師が担っています。しかし、一部病院でしか出せないお薬があり、そのお薬に関しては院内で薬剤師が説明をしています。

■ 外来通院治療センターでは、現在治療を受けている点滴や飲み薬の説明をしています。

今後は、痛みの治療において、医師の診察前に患者さんから痛みの度合いや痛み止めの使用状況を伺い、最適な疼痛緩和治療のお手伝いができればと考えています。薬剤師は、患者さんが今使用されているお薬をすべてお伺いします。すべては、安心・安全な医療を提供させていただくために…。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



お薬確認の際には、
 ・お薬手帳
 ・お薬説明書(薬剤情報提供書)
 ・お薬現物 など、
 服用されているお薬の内容が分かるものを必ずご持参ください。

コラム

サプリメントや健康食品のなかには、血液をサラサラにする作用のあることが知られているイコサペンタ酸エチル(通称EPA)やオメガ3と呼ばれる成分が含まれている場合があります。手術や検査によっては、これらの成分を含むサプリメントを服用していると、止血に時間を要することがあります。そこで手術または出血する可能性のある検査を受けられる患者さんは、すべてのサプリメントや健康食品を、手術および検査の7日前から中止していただきます。どうしてもサプリメント、健康食品を続けたい方は、医師にご相談ください。

News 病院閉庁時(休診日および時間外) 初・再診時の選定療養費についてのお知らせ

一般病床が400床以上の地域医療支援病院では、国の制度で選定療養費の徴収が義務化されているため、当院では病院開庁時(平日時間内)にお支払いいただいていた。今回、医療機関の機能分化を積極的に推進する国の政策に則り、**平成30(2018)年4月1日(日)から、病院閉庁時(休診日および時間外)でも、次のとおり徴収することになりました。**皆さまのご理解を、お願い申し上げます。

■ 初診時に選定療養費5,400円(税込)をお支払いいただく場合

- ・ 初診受付時に医療機関からの紹介状をお持ちでない場合
- ・ 医科に受診中であるが歯科は初めて、または歯科に受診中であるが医科は初めてで紹介状がない場合

※他の医療機関からの紹介状を持参された方は、選定療養費の支払いは必要ありません。

■ 再診時に選定療養費2,700円(税込)をお支払いいただく場合

- ・ 再診患者さんのなかで病状が安定し、診療所(かかりつけ医)への紹介を受けた患者さんが「かかりつけ医」からの紹介状を持たずに再受診された場合

初・再診時に選定療養費のお支払いが必要ない場合もございます。詳しくは、院内にポスターを掲示していますのでご確認ください。

Event 「親と子の防災体験セミナー」を開催します

本年も夏休みに小学4~6年生とその保護者を対象とした防災体験セミナーを開催します。毎年、さまざまな体験や講義を行っています。親子で防災意識を高める良い機会です。参加者からは好評を得ています。詳細については6月頃に当院ホームページやフェイスブック、チラシでご案内する予定ですので、ぜひご確認ください。



昨年の様子

- 日時/平成30年8月5日(日) ■ 場所/大阪赤十字病院敷地内
- お問い合わせ先/大阪赤十字病院 国際医療救援部

News 国際医療救援の活動をフェイスブックで発信しています

『国際医療救援部の公式フェイスブック』で国内救護、国際活動の情報発信をしています。災害訓練や災害の様子など、日々の当院の災害対応や国際活動に関する情報を、写真や動画とともにアップしていますのでご覧ください。



皆さまからの「いいね!」お待ちしております。

→ 「大阪日赤国際」で していただくと出てきます。

<https://www.facebook.com/大阪赤十字病院国際医療救援部-355328871229152/>

Event 3月8日「世界腎臓デー 啓発イベント」を開催しました

「世界腎臓デー」は腎臓病の早期発見と予防を促し、腎臓の働き、病気の理解を深めることを目的に、2006年に設立されました。国内の慢性腎臓病は推定1,330万人とされており、成人の約8人に1人にあたる数で、糖尿病と並ぶ「国民病」といえる状況にあります。腎臓病は自覚症状が少ないまま進行するため、病気の知識を正しく理解し、日常の食生活や体調の管理に気をつけて、進行を防ぐことが大切だとされています。



当日の様子

当院でも3月8日(毎年3月の第2木曜日)に、啓発イベントを開催しました。同日は「国際女性デー」であったため、「腎臓病と女性の健康」が世界のテーマに選ばれ、当院の腎臓内科医師、薬剤師、管理栄養士がそれぞれ講演を行い、医療相談や看護師による血圧測定も実施しました。多数の方々にご参加いただき、腎臓病について考えていただく良い機会となりました。

人事異動情報 (平成30年1月31日~4月6日付)

採用 (3月1日付) ●大岩 智大(皮膚科・専攻医) (4月1日付) ●坂田 隆造(院長) ●伊藤 亨(第一放射線診断科部長) ●丸澤 宏之(第一消化器内科部長) ●赤坂 太(放射線診断科・医師) ●飯田 悠人(眼科・医師) ●岩城 隆二(緩和ケア科・医師) ●上林 エレーナ幸江(小児外科・医師) ●岡田 佳与(皮膚科・医師) ●金井 有吾(糖尿病・内分泌内科・医師) ●小林 史昌(産婦人科・医師) ●瀬戸山 健(消化器内科・医師) ●瀧本 郁久(消化器内科・医師) ●松井 雄哉(脳神経外科・医師) ●山内 盛敬(放射線診断科・医師) ●豊島 映里(大手前整肢学園医務部・医師) ●青柳 真之(呼吸器内科・専攻医) ●家村 宜樹(病理診断科・専攻医) ●今井 智恵(小児科・専攻医) ●楠戸 絵梨子(麻酔科・集中治療部・専攻医) ●高崎 直(心臓血管外科・専攻医) ●高橋 賢人(精神神経科・専攻医) ●田村 優(神経内科・専攻医) ●中川 晃輔(救急科・専攻医) ●鳴神 昇子(放射線診断科・専攻医) ●西本 舞(外科・専攻医) ●早田 直生(泌尿器科・専攻医) ●森 菜都美(麻酔科・集中治療部・専攻医) ●山田 知佳(血液内科・専攻医) ●山村 優人(外科・専攻医) ●柴田 翔(血液内科・専攻医) ●遠藤 紗穂(初期研修医) ●桂 隆介(初期研修医) ●河野 杏奈(初期研修医) ●阪口 沙織(初期研修医) ●白石 恵(初期研修医) ●紙屋 熙紀(初期研修医) ●野村 倫子(初期研修医) ●比谷 里美(初期研修医) ●福島 知穂(初期研修医) ●藤川 詩織(初期研修医) ●前田 未知可(初期研修医) ●三谷 一樹(初期研修医) ●内藤 遼太(リウマチ・膠原病内科・常勤嘱託医師) ●篠原 奈緒(麻酔科・集中治療部・非常勤嘱託医師) ●住吉 真治(病理診断科・非常勤嘱託医師) ●神原 恵(麻酔科・集中治療部・非常勤嘱託医師) ●谷口 晶子(麻酔科・集中治療部・常勤嘱託医師) ●岡本 知子(麻酔科・集中治療部・非常勤嘱託歯科医師) ●月田 和人(神経内科・非常勤嘱託医師) ●北野 香雪(放射線診断科・非常勤嘱託医師)

退職 (1月31日付) ●工藤 雅文(心臓血管外科・医師) (2月28日付) ●山下 千聡(皮膚科・専攻医) (3月31日付) ●隠岐 尚吾(院長) ●大崎 往夫(第一消化器内科部長) ●有本 明(第一消化器外科部長) ●遊野 長平(第一放射線診断科部長) ●鈴木 聡(神経内科部副部長→非常勤嘱託医師) ●若山 俊明(呼吸器内科部副部長) ●那須 章洋(消化器内科部副部長) ●井上 洋士(歯科口腔外科・歯科医師→非常勤嘱託歯科医師) ●峠 理絵(神経内科・医師) ●岡本 洋子(眼科・医師) ●西島 規浩(消化器内科・医師) ●大野 正人(精神神経科・医師) ●飛田 卓哉(泌尿器科・医師) ●丹家 元祥(消化器内科・医師) ●大野 豪(放射線診断科・医師) ●船山 由樹(精神神経科・医師) ●吉田 裕幸(消化器内科・医師→非常勤嘱託医師) ●和田 浩巳(心臓血管外科・医師) ●有里 哲哉(腎臓内科・医師) ●波床 朋信(糖尿病・内分泌内科・医師) ●柴山 隆宏(病理診断科・医師) ●八木 洋輔(皮膚科・医師) ●島村 清貴(循環器内科・専攻医) ●植松 慎矢(呼吸器内科・専攻医) ●清水 拓也(血液内科・専攻医) ●城内 泰造(整形外科・専攻医) ●赤澤 嶺(小児科・専攻医) ●藤村 真輝(糖尿病・内分泌内科・専攻医) ●松前 高幸(消化器内科・専攻医) ●岡澤 藍夏(放射線診断科・専攻医) ●川田 千裕(放射線診断科・専攻医) ●切通 祥子(眼科・専攻医) ●山内 綱大(産婦人科・専攻医) ●城内 調和(精神神経科・専攻医) ●日向 瑞貴(血液内科・専攻医) ●森本 直樹(整形外科・専攻医) ●稲生 浩之(放射線治療科・専攻医) ●吉田 正太(脳神経外科・専攻医) ●池上 華菜子(初期研修医) ●河合 悠里子(初期研修医) ●竹村 弘司(初期研修医) ●政木 ジエニファー明子(初期研修医) ●松梨 敦史(初期研修医) ●吉原 理紗(初期研修医) ●領木 勇人(初期研修医) ●大塚 光(初期研修医) ●山本 丈史(初期研修医) ●和田 直樹(初期研修医) ●梶 誠兒(神経内科・非常勤嘱託医師) ●井奥 雄介(歯科口腔外科・常勤嘱託歯科医師→歯科医師) ●山形 倅司(麻酔科・集中治療部・非常勤嘱託歯科医師) ●柏崎 元皓(救急科・常勤嘱託医師) ●仙田 典子(乳腺外科・非常勤嘱託医師) ●片岡 竜貴(病理診断科・非常勤嘱託医師) ●山田 洋介(病理診断科・非常勤嘱託医師) ●竹井 雄介(病理診断科・非常勤嘱託医師) ●土井 啓史(リウマチ・膠原病内科・常勤嘱託医師) (4月6日付) ●高田 齊人(小児外科部副部長→非常勤嘱託医師)

編集後記

平成30年4月1日から、坂田隆造院長が新院長として就任しました。トップページに患者さん、ご来院者の方へ向けて就任のご挨拶を掲載していますので、ぜひご覧ください。

これまでを受け継ぎ、さらに地域医療の中核的病院として努力してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いたします。(Y.T)

病院のご案内

- 受付時間(月~金) (診療開始は午前8:45からです)
初診/月曜日~金曜日 8:30~11:30 再診/月曜日~金曜日 8:00~11:45
- 休診日 土・日・祝・5月1日(本社創立記念日)・12月29日~1月3日
- 診察券 診察券は全科共通で使用いたしますので、ご来院時には必ずお持ちください。
- ご面会 (病状によってこの限りではありませんが、必ず病棟の看護師にご相談ください)
平日/14:00~19:00 休診日/10:00~12:00、14:00~19:00
小児病棟(平日・休診日とも)/14:00~19:00
- 保険証等 保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。
また、変更・更新の際は必ずご提出ください。

当院は
敷地内全面禁煙です
当院は、敷地内全面禁煙を
実施しています。
ご理解とご協力をお願いします。



大阪赤十字病院

大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30 平成30年4月発行

■ お問い合わせ

TEL:06-6774-5111 (代表)

大阪赤十字病院 <http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>
赤十字全般 <http://www.jrc.or.jp/>

